

安城ロータリークラブ



週報

【No.601 2013/8 第2例会】

例会日：毎週金曜日

例会場：碧海信用金庫本店3F

安城市御幸本町15-1

TEL:0566-75-8866

FAX:0566-74-5678

Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp

HP: <http://www.anjo-rc.org>

第2742回例会

2013年8月9日(金) 12:30～13:30

司会者：野村 繁雄君

ソング：「手に手つないで」「4つのテスト」

卓上花：ノブレス(バラ)、オミナエシ

ゲスト及びビジター：近田知晃様 (株)ニッポー 代表取締役

八井貴啓様 輪島RC (株)大徹八井漆器工房 代表取締役社長



2013-2014年度RIテーマ：

「ロータリーを實踐し、みんなに豊かな人生を」

安城ロータリークラブ会長方針：

「充実したロータリーライフを楽しもう。」

■会長：都築 雅人

■幹事：神谷 研

■クラブ会報：青山竜也・川合昭道・加藤英明

■創立日：S33年1月10日

■RI加盟認証日：S33年2月6日

■会長挨拶

都築 雅人会長

《あいさつ》

8/2 尾張旭RC訪問

昨年度の地区内交流の延長で、神谷研幹事、横山真喜男理事、寺田孝司理事、亀島深里親睦委員とともに訪問してきました。例会場は尾張旭市商工会館で、会員数は25名です。箕輪良孝会長、加藤清久幹事、また、卓話者の豊田RC斎藤直美パストガバナーにもご挨拶できました。



8/2～8/4 七夕飾り事業

3日間晴天に恵まれ、迫力のある回転する南吉人形や七夕飾りは見物客の撮影スポットになり、クイズラリーとでむし短冊は大盛況で、景品のシール、サルビーのプラモデルやごんぎつね飴は完売状態で、事業は大・大・大成功でした。暑く長い3日間でしたが、神谷安城市長をはじめ、多くの七夕祭り関係者や見物客の方々に喜んで頂け、また、沢山の子供の笑顔にも接することができ、非常に楽しかった七夕祭りでした。



【8月のクラブ内例会・委員会予定】

16日 お盆休み

23日 卓話担当 加藤英明君

卓話者 社会福祉法人 愛光園 理事 血井寿子(さらいかずこ)様

テーマ「共に育つ

＝祈りて共に食い・祈りて共に働き・祈りて共に学び・祈りて共に考え・祈りて共に楽しむ＝

30日 卓話担当 加藤 弘君

卓話者 安城警察署生活安全課長 警部 水谷 篤(みずたにあつし) 様

テーマ「詐欺について」

* 第3回定例理事会 13:30～

《8月の行事予定・地区会議》

23日(金) 職業奉仕委員長会議 11:30～名鉄ニューグランドホテル 山口研職業奉仕委員長

27日(火) 第1回安城RCゴルフコンペ 葛城カントリー倶楽部

29日(木) 情報委員長会議 13:30～名鉄グランドホテル 大嶽情報委員長

■ 幹事報告

神谷 研幹事

- ・8/1の例会で皆様から頂きましたリレーフォーライフの寄付は、¥51,222でした。ご協力ありがとうございました。
- ・8/2尾張旭RC訪問時にお土産を頂きましたので配布いたしました。
- ・本日例会終了後会議室にて第2回理事会、ここ例会場にて七夕飾り実行委員会を行います。
- ・11/23・24地区大会が行われます。出欠用紙を提出ください。当日は貸切バスを手配いたしますのでバスをご利用ください。配車は名鉄新安城駅南口辺り、JR安城駅南口立体駐車場辺りを予定しております。時間等は後日お知らせいたします。
- ・8/13～8/16事務局お休みいたします。急用の場合は神谷幹事までお願いいたします。

■ 報告事項



輪島と安城の付き合いは30年前から、安城東高校が千枚田に来てくれて棚田がよみがえりました。それ以来、安城とは深い付き合いをしています。是非、輪島に来ていただき、千枚田を見て下さい。

輪島ロータリークラブ 八井貴啓様



安城市ごみゼロ運動連絡会へ寄付



七夕飾り実行委員長より報告



■ 出席報告

近藤 裕保君

■ ニコボックス報告

小林 逸朗君

会員	59名
出席義務者	48名
出席	38名
欠席	10名
出席免除者の出席	9名
出席率	82.45%
修正出席率	7月26日 第 2740回 100%



卓話者 (株)ニッポー 代表取締役 近田知晃様

テーマ :「熱き生き方プロジェクト」

最近の若者はダメだ！とか世間に関心がないという声をよく聞かすが、表現できる場が少ないだけで決してそんな事はない！

熱き生き方プロジェクトとは、思いはあるが、どう行動していいか分からない若者に火をつけ行動する“きっかけ”になるようにと立ち上げました。

理念は一つ『有言実行』

活動のメインは社会貢献活動。

現在では東日本大震災の復興支援活動も行っています。

また、若者の迷っている心に“熱い生き方”を提案したり、入院している子供たちに“夢や希望”を与えられるような活動もしています。

メンバーは多種多様で経営者やサラリーマン・OL・主婦・学生など色々な方が参加しています。

～熱き生き方～という団体名は、シンプルにどういった仲間の集まりなのか子供でも分かりやすいようにと思い付けました。

今からは熱き生き方プロジェクトの中で注目度の高い復興支援事業の内容をお伝えします。

支援事業といっても物質支援だけでなく、人の心を動かす為に被災地の方を地元へ招き直接、被災地の声を被災者本人から各地に届ける事に重きを置き、被災地の食材を使った“ご当地グルメ”を開発し全国へ広めるスキームを考えました。

継続的な復興支援とは...街が復興した後も持続的に“自然に”続くものでなくてはなりません。

注目したのは宮城県気仙沼市の『塩辛』です。震災前に全国シェアの約7割の需要がありました。

その塩辛を塩辛としてではなく食材として塩辛メニューを広める事で需要の底上げを図っています。

そこで考えたメニューを元に各地で開催されている街興イベント(豊田スタジアムや岡崎城公園・学校など)で被災地と地元の食材をコラボさせた“塩辛ネギ焼きそば”などを販売しました。

当然、各イベントに被災地の方を招き、被災地の声を直接、届けました。

地方では震災の話題を聞く事も少なくなってきた現在の被災地は、ようやく造成工事や県・市営住宅などの工事着工が始まる所で震災以前にあった産業も約50%が再開した程度です。

今後とも熱き生き方プロジェクトは継続的支援活動も含め、若い世代を中心に“熱き生き方”を提案し社会貢献していく所存です。

